

事務事業の概要

事務事業名	畜産振興事務経費		担当課	産業振興部農林振興課																																								
対 象	畜産農家、銘柄牛「伊賀牛」		事業期間																																									
目 的	口蹄疫病などの伝染病の予防及び畜産農家の経営安定化、銘柄牛の優良化を図る																																											
根拠法令等	産業振興部関係補助金等交付要綱																																											
内 容	伊賀産肉牛生産振興協議会への負担金を支出し、協議会を通じて生産振興・ブランド力向上に取り組みました。また、畜産生産者等の生産活動に対して助成を行うことにより、品質向上と共に出荷価格を安定させることにより、畜産経営の安定化を図り、銘柄伊賀牛の体質強化を図りました。 家畜保健衛生対策事業費補助金、優良素牛導入助成金、和牛肥育組合振興助成金を支出しました。 優良素牛導入 497頭																																											
事業に要した 主な経費 など	<table><tr><th>経費</th><th>金額</th><th>摘要</th><th></th></tr><tr><td rowspan="5">負担金、補助及び交付金</td><td>円 0</td><td>伊賀産肉牛生産振興協議会負担金</td><td>円</td></tr><tr><td>567,000円</td><td>家畜保健衛生対策事業費補助金</td><td>円</td></tr><tr><td>360,000円</td><td>優良素牛導入助成金</td><td>円</td></tr><tr><td>7,500,000円</td><td>和牛肥育組合振興助成金</td><td>円</td></tr><tr><td>292,990円</td><td></td><td>円</td></tr><tr><td></td><td>円 0</td><td></td><td>円</td></tr><tr><td></td><td>円 0</td><td></td><td>円</td></tr><tr><td></td><td>円 0</td><td></td><td>円</td></tr><tr><td></td><td>円 0</td><td></td><td>円</td></tr><tr><td>計</td><td>8,719,990円</td><td></td><td>円</td></tr></table>				経費	金額	摘要		負担金、補助及び交付金	円 0	伊賀産肉牛生産振興協議会負担金	円	567,000円	家畜保健衛生対策事業費補助金	円	360,000円	優良素牛導入助成金	円	7,500,000円	和牛肥育組合振興助成金	円	292,990円		円		円 0		円		円 0		円		円 0		円		円 0		円	計	8,719,990円		円
経費	金額	摘要																																										
負担金、補助及び交付金	円 0	伊賀産肉牛生産振興協議会負担金	円																																									
	567,000円	家畜保健衛生対策事業費補助金	円																																									
	360,000円	優良素牛導入助成金	円																																									
	7,500,000円	和牛肥育組合振興助成金	円																																									
	292,990円		円																																									
	円 0		円																																									
	円 0		円																																									
	円 0		円																																									
	円 0		円																																									
計	8,719,990円		円																																									

補助金等詳細

全体コスト（千円）	直接事業費	項目	R2年度決算	R3年度当初予算	R3年度決算	R4年度当初予算	特記事項記入欄(積算基礎、特定財源の名称等)
		国県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		その他	7,500	7,500	7,500		
		一般財源	1,276	1,480	1,220		
	人件費	合計(A)	8,776	8,980	8,720	0	ふるさと応援基金 7,500,000円
		業務量	0.25 人	0.30 人	0.30 人	0.30 人	
		人件費	1,953	2,330	2,330	2,322	
		業務量	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
		人件費	0	0	0	0	
		業務量	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
		人件費	0	0	0	0	
		小計(B)	1,953	2,330	2,330	2,322	
		合計(A+B)	10,729	11,310	11,050	2,322	
		市民1人当たりのコスト(円)	119	127	124	27	

指標	指標名	指標の説明	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	優良素牛導入頭数	いがほくぶ和牛肥育部会の優良素牛の導入頭数	頭	目標	500	500	500	500
				実績	497			
	指標化できない成果	0		達成	99.4%			

方向	継続課題	肉牛の肥育を取り巻く状況は、素牛価格の高値が続いていること、肥育農家の減少など厳しい状況が続いています。伊賀牛についても、生産量が年々減少しており、増頭に向けた施策が必要な状況です。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を要因とする肉の消費低迷も、肥育農家の経営に大きな影響を与えています。
	改善案	高値水準が続く素牛の導入について、引き続き支援が必要です。また「伊賀牛地域内一貫肥育モデル事業」で育てられた伊賀生まれ伊賀育ちの素牛の導入について、育成農家から肥育農家へ繋ぐ方法について、引き続き検討が必要です。

補助事業名	和牛肥育組合振興助成金					施策No.	3－2－1		
交付の目的	伊賀牛の生産品質向上と和牛肥育組合の振興を図る。								
交付先・交付要件	いがほくぶ和牛肥育部会								
事業内容	和牛振興に対する助成								
根拠法令等	産業振興部関係補助金等交付要綱第1条								
事業開始年度	不明					契約・債務負担	無		
財源・率	－					上乗せ・範囲拡大	無		
補助実績等（千円）	H26	450	H27	450	H28	450	H29	450	
	H30	450	R1	450	R2	372	R3	293	
目的の達成状況（何が、どうなれば達成か）	伊賀牛の生産品質向上を図ることが交付目的であるため、継続した支援が必要である。								
補助対象経費	販売促進事業費、研修事業費 等								
補助金額・補助率の算出根拠	無	類似制度、同一団体への重複補助の有無			無	終期設定の有無		無	
性質別分類	1. 団体運営補助		「団体運営補助」である場合の事業費補助への移行策		補助は団体への支援であるという観点から、原則として補助率は補助対象経費の 1／2 以下とする。				
●見直し目標の設定及び経過措置（指針「4 見直しの方向性と経過措置」参照）									
今後の方向性	継続		その理由		伊賀牛ブランド化の推進にあたっては、団体の果たす役割は大きく、継続した支援が必要である。				
見直し事項	具体的な内容（いつまでに、事項を、どうする）								
	補助制度	無			対象と金額	無			
●補助金等の評価（指針「5 その他の取り組み」参照） ※実績確定後、年度ごとに記入									
	評価結果				立入調査その他監督の実施状況			改善点・今後の予定・見直しの実施状況	
平成30	和牛肥育（伊賀牛）の振興を図ることを目的とした活動に対して補助金額に見合う効果はあったと考える。また、補助金については有効に活用されている。				立入調査その他監督の実施状況については実施していないが、補助対象者に対して適正に書類等を提出させ、それをチェックしている。			伊賀牛の増頭の観点から、これまで以上に伊賀牛の生産及び品質向上を図るため、補助金の継続を考えている。	
令和元年	和牛肥育（伊賀牛）の振興を図ることを目的とした活動に対して補助金額に見合う効果はあったと考える。また、補助金については有効に活用されている。				立入調査その他監督の実施状況については実施していないが、補助対象者に対して適正に書類等を提出させ、それをチェックしている。			伊賀牛の増頭の観点から、これまで以上に伊賀牛の生産振興、品質向上、販売促進を図るため、補助金の継続を考えている。	
令和2年	和牛肥育（伊賀牛）の振興を図ることを目的とした活動に対して補助金額に見合う効果はあったと考える。また、補助金については有効に活用されている。				立入調査その他監督の実施状況については実施していないが、補助対象者に対して適正に書類等を提出させ、それをチェックしている。			伊賀牛の増頭の観点から、これまで以上に伊賀牛の生産振興、衛生管理の強化、品質向上、販売促進を図るため、補助金の継続を考えている。	
令和3年	和牛肥育（伊賀牛）の振興を図ることを目的とした活動に対して補助金額に見合う効果はあったと考える。また、補助金については有効に活用されている。				立入調査その他監督の実施状況については実施していないが、組織の総会や監査は適正に実施されていることを確認している。事業活動については研修会等への参加で実施状況の確認をおこなう。また補助対象者に対して実績報告時に適正に書類等を提出を求め、内容確認をしている。			伊賀牛の増頭の観点から、これまで以上に伊賀牛の生産振興、衛生管理の強化、品質向上、販売促進を図るため、補助金の継続を考えている。制度改正ではないが、新型コロナウイルスの感染拡大による事業の縮小については、内容確認をおこない、補助額の減額をおこなっている。	
●補助金等の見直し基準における基本的事項の再チェック（指針「3 見直し対象と基準」参照）									
区分	項目				チェック	備考			
公益性・必要性・効果	「公益上必要である」ことが客観的に認められるものである。				○				
	事業活動の目的・視点・内容などが経済情勢に合致している。				○				
	市民の福祉向上及び利益の増進に効果が認められる。				○				
	市が補助すべき事業・活動であり、施策の推進に有効である。				○				
	補助金の額や補助率に対して、費用対効果が適切である。				○				
公平性	地域間で補助対象、補助基準、支出科目にばらつきはない。				○				
	同一分野のなかで、特定団体（地域）を対象とした補助金ではない。				○				
団体の自立性	毎年同内容の事業に対して、3年以上補助を受けていない。				-	伊賀牛ブランド化の推進にあたっては、団体の果たす役割は大きく、継続した支援が必要であるため			
	自主財源の確保など、自らの努力で団体運営を行う姿勢がある。				○				

見直しの視点	質問/所属回答						専門家チームからのアドバイス・考え方
	専門家チーム	所属	専門家チーム	所属	専門家チーム	所属	内容
法的根拠	産業振興部補助金要綱に書かれていない研修などに補助するというものは何かに定めているのか？	具体的には定めていない。			セルの塗りつぶし内容について ・・・全庁的な指摘事項（個別の意見聴取せずに全庁で取り組むべき内容） ・・・個別の指摘事項として、下で「対応方針」を確認する内容		要綱上、具体的に何に支出するかという内容まで定めていないことは改めるべき。これは伊賀市全体で改めないといけない。何に補助して何のために補助しているのか法規定上、例規上改めていただきたい。
	内規はないか？	今すぐには示せない。					この補助金は最終的に何を目標としているのかというのを定めて、それに沿った対象経費を定めるような要綱にするべき。
							目的に対しての交付額という部分が、要綱では読み取れない。
積算根拠	補助金額はどの様に積算するのか？	対象事業を割り振った中で実施していただき、その事業計画に基づいて交付申請していただく。この45万円全額が貰える前提の計画となっているのが現状である。	積算の根拠となる研修資料なども確認しているのか？	研修の実施資料は報告していただいている。			研修会が効果があるかを測るためには、参加者のレポートなども報告書として把握しておく必要がある。
	補助率が1/2以下とするのはこれからか？現状か？	現状である。前回の指針に基づいた減額である。ここ3年くらいコロナの影響で、計画していたことが実施できなく、PR、イベント出展が出来なかった。実績の積み上げで、総費用として下がってきたため、R2～3年度は自然と1/2になっている。					
	積算根拠はあるのか？	積算の根拠はなく、予算内で振り分けているような状況。					団体補助、定額補助、積算の無いものは改め、事業費補助に移行すべき。また、必ず1/2以下にしなければならぬという訳ではない。問題は、何に対して補助するのかを明らかにすべき。
終期設定							事業開始年度が不明、昔からやっているということだろうが、終期設定は必ず必要。その際に継続するにしても検証して決めるべき。
							単純な予算枠での補助はやめ、事業費の積み上げによる補助にするべき。
自己負担・決算内容			部会として独立採算、収支があるのか？	規約があり、部会ごとに総会をしている。	市の補助金が1/2ということで補助金が半額になるのは分かるが、部会費が1/2になっている理由は？部会費はそのまま徴収し、その差額は返還すべき。	45万円を補助額で貰える前提として活動を行ってきたと考えられる。	市の1/2の補助金を得ることを前提とした決算内容になっているので、そこには問題がある。部会費で予算を賄えるのであれば、それで運営して貰うのが本来の姿。補助金は足りないところを補完するもの。そのように改めるべき。
					部会費の内訳は？	各農家からの会費が中心。	1つの団体に様々な補助金が交付されていることもあるため、確認するべき。
公益性	この補助金は何に対して補助するものか？	和牛肥育部会の伊賀牛の振興PR活動や部会員の研修会費などに補助するもの。					
公平性・透明性	減額しているのは？1/2という理由はないのでは？	補助金の見直しに関する指針に基づいて抑制していく補助金ではあり、コロナで実際事業がなかったので1/2の補助金としている。	部会とあるが、いろんな組織の集まりなのか？	事務局がJAとなっており、ねぎ部会や母部会などJA管理で複数存在している。	但馬牛を伊賀で買っている？その買い付けをしに行く。	共同買付などで輸送コストを下げたり、九州のほか東北でも買い付けしている。	他の畜産農家もあるなか、牛だけ補助しているというのは客観的には他団体との公平性に欠けていると言える。その中で市として伊賀牛は特別ということが市民に対しても説明が成り立つ必要がある。
	和牛肥育組合には全肥育農家入っているのか？	入っている。					
行政関与の必要性	実際は先進地視察になっているが、これで素牛を維持できるのか？	大半の素牛は市外から買っているものなので、その産地でのセリの状況などを把握し、素牛導入を続けるため視察研修を実施している。素牛の生産者と繋がりをもつことは、伊賀牛の数が増える、減らないようにするためにも必要。	過去から旅費の支出はあるのか？ 外部の視点では、年4回の旅費支出が適正かは疑問。	昨年は県外への出席はなかったが以前からあると聞いている。			目的と支出との関連性が、実績報告書から明らかになっていない。県外旅行に関しては報告書がないと、本当に目的に寄与されていたのかが分からない。行政としての目的に対して本当に年4回の視察を継続支援する必要があるのか。現状、単にお金を出しただけの事業になっていないか。検討すべき。
	買い付けに係る交流は生産者が商売の一環としてすべきものなのではないか？	伊賀は1頭買い（肉屋が肥育農家に買い付けに行く）をしているが、肥育農家と販売者のつながり、生産者同士のつながりがあるため、まとまって動くというのが伊賀では一般的になっている。素牛の質、技術を低下させないためにも一緒に動くというのには意味があると考えている。					
補助の効果（成果指標）	この補助金で何を達成したいか分からない。ブランド化の推進、振興は抽象的である。具体的に、この期間に、団体は何を目指していくのか？ 優良素牛導入頭数の意味は？	子牛を買ってきて、二年半以上、伊賀の地で肥育し、出荷して伊賀牛となる。この頭数をキープしていく必要があるので、導入素牛の頭数を成果指標にしている。			長く続けている補助金のようなが、何か効果を測るアンケートなどは実施しているのか？	賞の受賞など評価は高まっているうえ、牛自体の値段も上がっている等である。	効果の測定が甘いと感じる。伊賀市として伊賀牛の振興を図るのであれば、効果・成果を図る方法は考えるべき。品評会で賞を取った、値段が上がったということを具体的な指標として定め、この補助金の使われ方でその効果があったのかを図るべき。
	今補助されていることが、素牛の増加に繋がっているのか？	そうです。この肥育部会の活動が、伊賀の共通技術が保たれているし、肥育農家の横の連携を深めている。			補助金額に見合う効果とは？どの様な測定をしているのか？	生産者が減るなかで素牛の頭数が一定保たれていることを評価している。	
今後の方向性							何のために、何を目指して、そのためにどういった事業を行い、何に補助金を使うのか、これを明確にすべき。
他事業への横展開							伊賀牛振興補助金は、同じ視点で見直しを（実績報告書は左側(260万円)が正しい。）

見直しの視点		指摘事項	対応方針	いつまでに
個別論点ごと	積算根拠	研修会が効果があるかを図るため、参加者のレポートなども報告書として把握しておくべき。	研修会について、参加者からレポート等の提出を求めて事業効果を検証すべく、補助対象団体と協議をおこないます。	令和4年度末
	受益者負担・決算内容	市の1/2の補助金を前提とした決算内容になっていることは問題。まずは部会費で予算を組み、足りない部分に補助金を充てるように改めるべき。	補助対象団体と面談し、予算内容、対象経費について協議をおこないます。	令和5年度末
	公平性・透明性	他の畜産農家もあるなか、牛だけ補助しているというのは客観的には他団体との公平性に欠けていると言える。市として伊賀牛は特別ということが市民に対しても説明が成り立つのか。その理由はなにか。	古くは伊賀忍者が牛の肉を乾燥させ保存食として携帯していたと伝えられ、これが伊賀牛のルーツとも言われています。他の畜産業との違いとして伊賀牛の歴史が挙げられ、市民の認知度が高く全国でもあまり見られない地域内生産地域内流通主体のブランド牛です。「伊賀牛」は伝統産業と言っても過言ではありません。また、当市ふるさと納税でも伊賀牛が目玉となっているなど、地域外の販路も拡大が予想され、伊賀市をけん引するブランド「伊賀牛」の振興を継続する必要があります。	
	行政関与の必要性	目的と支出との関連性が、実績報告書から明らかにされていない。年複数回の視察を継続して補助していく目的と必要性を検討し、明確にして欲しい。	補助対象団体と面談し、予算内容、対象経費について協議をおこないます。また、行政の関与に関しては、上記記載のとおり、市が「伊賀牛」のブランド力向上に係る取組を実施していることから、今後も支援を継続します。	令和5年度末
	補助の効果（成果指標）	品評会で賞を取った、値段が上がったということを具体的な成果指標として定め、この補助金の使われ方でその効果があったのかを図るべきではないか。	品評会での受賞等については、どのような団体がどのような賞を設けているか把握できていないため、他課で同じような指標があればご助言をいただければと考えます。また、価格については、市場価格は経済状況等により変動するため、「品質向上＝ブランド力向上＝価格上昇」という直結した図式にはなりにくいと考えます。肉の価格のみならず飼料等の高騰などの問題もあり、生産者や補助事業団体の自己努力だけでは解決できない要素に左右されるため、持続可能な産業として未来に残すことを目標に、導入頭数を目標にしています。	
	今後の方向性	何のために、何を目標して、そのためにどういった事業を行い、何に補助金を使うのか、これを明確にしていきたい。	生産振興・ブランド力向上の取組をおこなってきましたが、可視化が容易なゴールがない状態であり、具体的な活動に対しての目標が見えにくい状況です。今後補助対象団体と個別の目標についても検討をしていきます。	令和5年度末
本事業に関する今後の部局方針		継続		
上記理由		市民の認知度、歴史などから今後も継続して伊賀牛の振興をおこなう必要があるため		

①

諮問時の視点	●視察研修会に関する旅費が対象経費となっているが、「伊賀牛の生産品質向上と和牛肥育組合の振興を図る。」という補助金交付の目的に対して成果が見えにくい。組合の運営費補助とみえるため、目的に沿った事業への補助金に変える必要があるのではないか。 ●交付先団体が違う伊賀牛への関連補助金等が複数あり、補助金等の整理統合が必要なのではないか。
--------	---

②

審査結果	
上記審査結果に対して付される意見	
その他審査時の主な意見	